



これは何でしょう



答えについての思い出などもお待ちしています。

- しめきり 8月14日(明)必着
- あて先 〒783 南国市大浦甲二二〇一 南国市企画課 親子クイズ係
- 賞品 正解者の中から抽選で5人の方に図書券を進呈
- ◎第279回親子クイズの答えは、扇風機でした。
- 第279回当選者発表(敬称略)
 - (応募総数30通)
 - 浜田ユリ子(明見)
 - 野口幸子(久礼田)
 - 土居大祐(萩ヶ丘)
 - 水田柳子(陣山)
 - 門田則子(篠原)

★ ★ 思い出がいっぱい

- ◆戦前の扇風機は、四枚の羽がついていました。外側には糊を張り中心に短いテープを結びつけて風を流していました。家族の夕食時には、先を競って涼風の近くに陣取ったことでした。(山本秀美)
- ◆小さい時は、母がうらわでいつもおおいでくれていました。今は扇風機があり助かっています。そのうちクーラーになり、使われなくなるのでしょうか。(鍋島邦太)
- ◆うちの子どもが最近、一番興味があるのが扇風機。指をつこんでみたり、スイッチをいじったり、コードをなめたりするのでちよつと危険。でも自分も小さいころ、わざと手をつこんで扇風機を止め、親に怒られました。(中石一彦)
- ◆三歳の娘は、扇風機に向かって「アーアー」を繰り返し、微妙に音が変わるのを楽しんでいます。皆さん、経験ありますか？(野口幸子)
- ◆長男が生まれたときから、扇風機があります。三人の母が買ってきたものです。あれから二十年と三か月になります。まだ使っています。(谷倉百世)



比江の貫之郎跡には、訪れた人が詠んだ句を入れるための投句ポストが設置されています。

広く県内外から多くの方が訪れ、遠く平安の寺に思いをはせて句を詠んでいきます。貫之にちなんだたくさんの方の中から、橋田憲明、池積章両選者が選んだ作品を紹介します。

- みやこへとおもふの碑あり春惜しむ 大阪府 島本 時子
- ここにきて春ひとしほの山と河 香川県 小畑 進
- 紀子郎跡の間に咲きしつみれ草 国分 高橋 姓
- 紀氏郎跡整へられて春隣 香代美町 田村 香代
- 天平の土壇明けゆく初音かな 国分 高橋 以登
- 国府跡野焼の煙かむりけり 室戸市 川辺 谷早
- 畦脇の草かと思れば余り苗 国分 竹内 紀子
- 紅梅や五まひゆたかに親世音 岡山県 加藤一三六
- 大漁旗揚げ端午を祝ひけり 大阪府 岡本あさみ
- 紀子郎跡芽吹く桜の大樹かな 赤野町 口崎 純

- そのかみの国府跡とや花は葉に 東京都 神谷 枝乃
- 蛙鳴く水田園めり紀子郎跡 奈良県 山岸 澄子
- 花は葉に古りし碑文をなぞり詠む 岡山県 守安 愛子
- 向国は鯉帳にも大漁旗 兵庫県 田口 晶子
- つつましき郎跡なり青き踏む 鳥取県 ト郎 節子
- 国術跡際の際まで田植しぬ 鳥取県 米山 利子
- 国司郎跡の桜も葉となんぬ 奈良県 吉川 一平
- 一面の植田の中の紀氏郎跡 香代美町 野村八重子
- 立ち替り鈴ひびき来る道路かな 奈良県 二塚 元子
- 碑は土柱日記なり都牟 奈良県 由井 純子
- 貫之を恋ふ白蝶を見てあたり 鳥取県 杉本 満
- 虚子の句碑したひし蝶の舞小日かな 香代美町 野村八重子
- 峡深くはりつく村の運き春 香川県 小畑 進
- 紀子郎の碑にかざしたる岩板 鳥取県 小玉えつ女
- 植田中貫之跡は広からず 鳥取県 小玉えつ女
- 土佐守しのべと鳴ける蛙かな 鳥取県 山本 八杉

- 紀子郎跡東西南北植田かな 大阪府 岡 明子
- 紀氏跡は小さき原っぱ草青む 鳥取県 坂口 忠子
- 紀氏郎の里にもたれて春惜しむ 鳥取県 坂口 忠子
- 牡丹に出入り自由の国分寺 兵庫県 広田 祝世
- クローバに寝て貫之の空ありぬ 大阪府 吉田 愛子

- 貫之の桜葉となり奥となりぬ 奈良県 由井 純子
- 土佐日記ここに起りて花は葉に 大阪府 岡本あさみ
- 紅梅や五まひゆたかに親世音 岡山県 加藤一三六
- 「はかなき」に始む文の碑草青む 奈良県 西岡 晴子

パキスタンへ高知 架け橋に 青年海外協力隊 棚橋ひとみさん



大浦の棚橋ひとみさんは、今年七月から二年間、青年海外協力隊員としてパキスタンに赴任します。棚橋さんの職種は家政。趣味でやっていた手芸を生かし、当地の

国立身障者センターでリハビリを指導します。また、いろんな活動を通じて、木の文化界づくろいや四万十川の様子など、高知県の文化を紹介し、赴任国の情報収集に当たる「県青年海外文化大使」の任も負っています。

今回の協力隊では、高知県からただ一人の参加となった棚橋さん、四月から約二か月半、福島県で厳しい訓練を受けました。訓練所で出会った、仲間の隊員たちは普段の生活からボランティア活動まで、何に対しても前向きで、いい刺激をうけたそうです。

三十年の歴史がある青年海外協力隊ですが、パキスタンへの派遣は今年で三年目と前例が少ないだけに「始まったばかりでいろいろ大変なのは、気遣いが五十度耳か」と聞かれました。「不安もあるようです。それでも、「高知に残していく家族にはすまないと思いが、今やれること、今しかできないことをやりたい。パキスタンの識字率は三五割、満足の行くことはできないかもしれないけど、教育や文化面に関わってこの数字を高めていきたい」というように意欲をもって活動してくれることでしょう。